

令和7年度 第4回（第8期第3回）新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 令和8年3月13日（金）午後6時～8時

【場 所】 B I Z新宿（区立産業会館） 研修室A

【出席者】 委 員：植田、長山、笠井、則竹、捧、志村、中村、平山、癸生川、塩月、各委員
事務局：村上文化観光産業部長、内野産業振興課長、黒川産業振興係長、前田産業振興主査、
齋藤産業振興主査、

【欠席者】 なし

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 議事

（1）創業支援について

資料1～6に基づき、事務局より説明した後、委員による意見交換を行った。

（2）産業実態調査と産業振興プランについて

資料7～10に基づき、事務局より説明した後、委員による意見交換を行った。

3 主な発言内容

（創業支援）

- ・事業化に向けた支援案の一つである創業塾の提供について、区の地域特性に応じて飲食サービス業に限定するか、個店開業という切り口で幅広く対象とするか検討が必要ではないか。
- ・新宿区のスタートアップ支援に関する課題として、区内に大学等が多く存在しているにもかかわらず、それらを十分に活用しきれていない。大学だけではなく色々なところと色々な取り組みをしてもいいのでは。
- ・スタートアップ支援は分野を絞り込まなければ予算的に成立しない。特に重要なのは技術（シーズ）ではなく地域ニーズであり、出口戦略を意識した支援設計が必要
- ・スタートアップは成長過程で区外へ流出する可能性が高く、バイアウト先を含めた戦略が必要だと思う。
- ・スタートアップ支援の方向性として、地域課題の解決や区民生活の向上に資する分野を重視すべきであり、また、そのような分野であれば区内での実証実験も行いやすく、行政としても支援しやすい。
- ・どのようなスタートアップを支援するかといった目的を先に設定し、その後に資源や連携を位置づけた方がよいのでは。
- ・産業の定義について、国の業種分類にとらわれる必要はなく、新宿区として独自に横断的な特徴で産業を定義することも可能ではないか。
- ・新宿という地域のブランド力は全国的に高く、創業地としての魅力は十分にある。そのため、創業後の定着を意識した制度設計が重要であり、また、既存産業の継承との両立させていくことが望ましい。
- ・創業支援と商店街を結びつけるためには、業種と地域との特性を踏まえたマッチングが重要である。

（産業振興実態調査と産業振興プラン）

- ・調査手法やプランの構成については妥当だと思うが、数値目標や成果指標が設定されておらず、政策の効果が測定できない点が課題だと思う。また、新宿の多様な産業集積という特徴は整理されているものの、エリ

アごとの戦略まで踏み込めていない。

- ・商店会へのアンケート調査について、商店会だけでは個店の実態との乖離が生じる可能性がある。
- ・事業者への負担を考慮して簡素化や効率化を検討してもいいのでは。

4 次回日程について（予定）

産業振興会議

日 時：令和8年5月

会 場：B I Z新宿

5 閉 会